1 なまこ壁・鰻絵の名作・仏の小道 松崎歴史の散歩道

（家族向・一般向）

歩程 約1時間10分

古くから港町として栄えた松崎は、あちこちに「なまこ壁」が見られる独特の雰囲気をもった、西伊豆でも湯量豊富な温泉郷である。

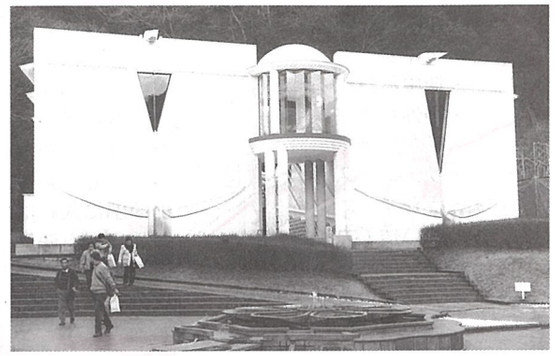
松崎までの交通ルートは二つある。一つは三島駅から2時間7分（特急バス2便）、修善寺駅から1時間21分（特急バス2便）～1時間43分。二つは伊豆急下田駅からバスで50分。

松崎温泉歴史の散歩道は、古き港町のかたすみに残された名所旧跡を巡る約1時間の散歩コース。

起終点は**伊豆の長八美術館**。バス利用の場合はバス停**松崎**から**八木山行・雲見入谷行・伊豆急下田駅行**（マーガレットライン経由）バスで3分。ブラリと歩いても15分である。

この場合は那賀川畔から中瀬邸、浄感寺と先に巡り、帰りは伊那上神社から**松崎**へ戻るコースがよい。

伊豆の長八美術館は、松崎が生んだ鰻絵の名工・伊豆の長八こと入江長八の作品50余点を展示した漆喰芸術の殿堂。日本古来の左官技術と現代の新工法を調和させて、全国の左官の名人の協力によって建てられたユニークな形をした美術館である。



▲伊豆の長八美術館

長八は文化12年（1815）松崎に生まれ左官となり、23才の時、江戸に出て狩野派の絵を学び、漆喰で絵を画く技法「鰻絵」を芸術の域に高めた。江戸で左官の名人として知れわたり、明治22年（1889）に東京深川で亡くなっている。

作品はどれも繊細で色があせていない。入口で渡されるルーペで見ると、鰻一つで描いたとは思えないほど細かい技術に驚かされる。

伊那下神社は産業守護と航海守護の神様を祀ってある延喜式内の古い神社。境内には沖行く船の目じるしとなった天然記念物の「親子イチョウ」の大木がある。「畳表の碑」は松崎町の産業振興のため、畳表の普及に貢献した正観正人の顕彰碑である。

伊那下神社の隣りが、浄土宗の古刹清水山**浄泉寺**。徳川時代、伊豆の三名園の一つにもなっていた庭が美しい寺である。山門手前の経堂は、ぎっしりと一切経が納められた輪蔵になっている。この輪蔵を手で一回転すると、すべての経を読んだと同じ功徳（ご利益）があるという。

本堂欄間の石田半兵衛の透彫や裏山の33観音が見どころ。

石仏が24体並んだ**仏の小道**を通って相生堂跡へと山道に入る。六地蔵を見送った先に**相生堂跡**の石碑がある。源頼朝と文覚上人が出会った所で、ここで源氏再興を語り合ったと伝わっている。

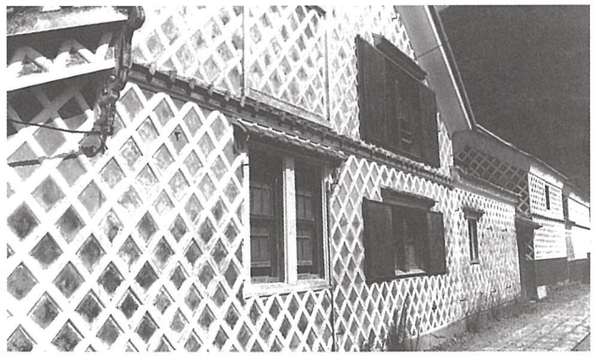
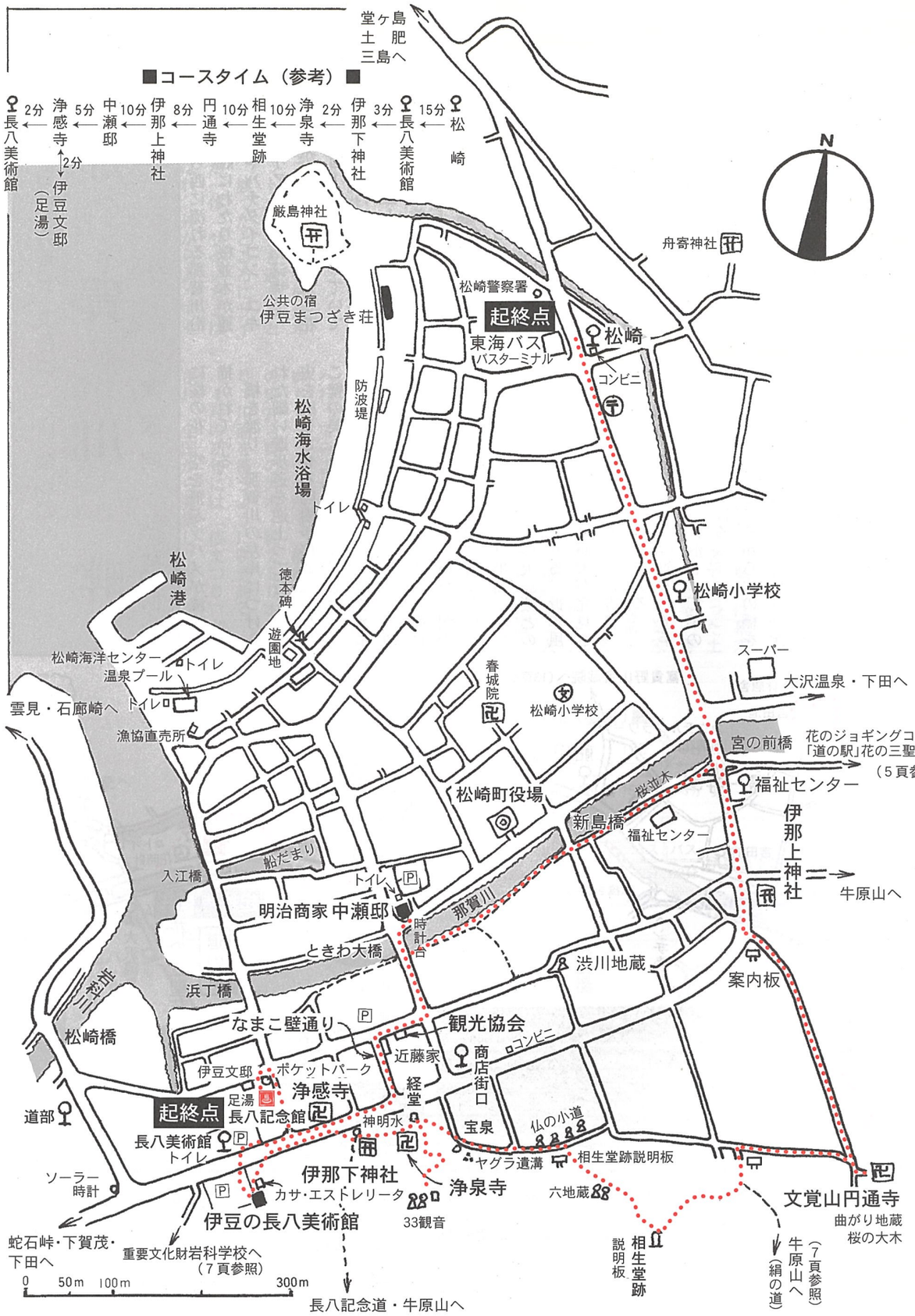
お墓から左に下って再び**仏の小道**に出、右へ行けば**円通寺**。「伊豆横道33観音」の4番札所で、サクラの大木と、触るとボケ防止にご利益があるという**曲がり地蔵**がある。

伊那上神社を参拝して宮の前橋から那賀川の左岸に沿って下る。河畔は桜並木で、新島橋を過ぎると道は細くなりなまこ壁の塀が続く。

ときわ大橋を渡った所に13時まであるユニークな**時計塔**があり、その下になまこ壁の美しい明治商家**中瀬邸**がある。かって呉服問屋として栄えた旧家で、当時の様子を再現した**歴史資料館**となっている。

観光協会の先を左に曲がると**なまこ壁通り**。なまこ壁は、瓦を漆喰でつなぎ固めたもので、火災予防・盗難予防、保温・防湿・防虫の目的で造られた。主に蔵（倉庫）が多く住居にもよく使われている。

浄感寺は本堂が「長八記念館」となっており、長八の傑作で、静岡県指定有形文化財の「八方にらみの龍」や「飛天」など約20点を展示してある。境内に長八の墓と胸像、記念碑がある。



▲なまこ壁の道